



## 【理念】

## 「愛し愛される病院」

## 【基本指針】

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

## 【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

## ごあいさつ

厚生労働省公式サイトにおいて「平成27年簡易生命表（日本の平均寿命）」が公開され、男性80.79歳（世界第4位）女性87.05歳（世界第2位）と発表されました。では1位はというと男女ともに香港との発表があり、思いもかけぬ国名に驚きました。なぜ香港かと思っていたところ、たまたま見ていたTVで発達した医療制度と健康的な食習慣によるものだと報道しておりました。

2025年には日本の後期高齢者は3,500万人に達するといわれ、今後は都心の高齢化が加速するといわれています。当院の入院患者さまの平均年齢も年々上昇してきています。それにともない認知症の患者さまも増加してきています。回復期病院のミッションは、①ADL、QOLの向上②寝たきり防止③在宅復帰です。認知症状の悪化は、回復期病院のミッションに多大な影響を及ぼします。当院でも手探りでの認知症対策を行ってきましたが、今年7月に認知症看護認定看護師が誕生しました。それに伴い今まで曖昧になっていた認知症患者さまへの対応が具体的になってきました。回復期リハビリテーション病棟において、人とのかわりによってリハビリが進み回復すると考えています。あたたかい対応が浸透し、多職種で問題を解決し、在宅で患者さまが幸せに生活できることを目標に今後も取り組んでいきたいと思っております。

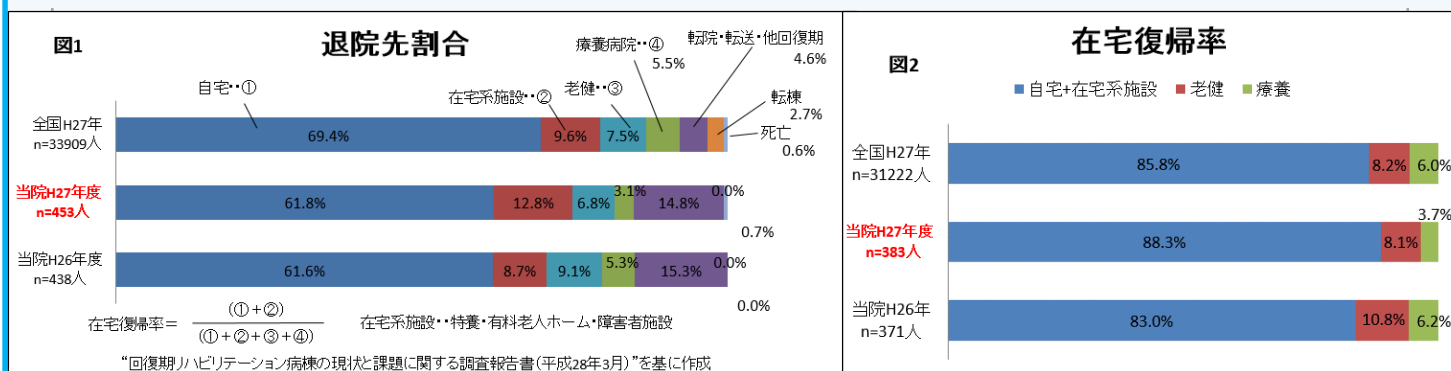
看護部長 そのだ のりみ 園田 祝美

## 入院窓口から 当院の退院先割合と在宅復帰率

家庭・社会復帰というご希望のもと当院に入院される患者さまの退院先割合（図1）は、自宅が最も多くを占めています。一方、転院も少なくありません。これは急変・合併症治療・胃ろう造設が必要な場合など、重症な患者さまを多く受け入れていることと関連していると考えられます。また、H26年度からH27年度にかけて介護老人保健施設が減少する中、在宅系施設<sup>\*1</sup>は増加傾向にあります。残念ながら自宅退院出来なかった際に、介護体制や設備環境の整う施設（特に長期的な生活の場として特養<sup>\*2</sup>・有料老人ホーム<sup>\*3</sup>）を選ばれることが増えてきています。

在宅復帰率<sup>\*4</sup>（図2）を見ると、当院はH26年度からH27年度で5%上昇し、全国平均を超え88%となっています。退院先を判断する上では、食事や排泄動作の自立度と介護力の有無が大きな要素となるように見受けられます。

地域連携室 にししま だいご  
西嶋 大悟



- \*1 在宅系施設・特養、有料老人ホーム、障害者施設のこと。
- \*2 特養・特別養護老人ホーム。設置主体は自治体や社会福祉法人。要介護3以上。
- \*3 有料老人ホーム・民間企業の運営する介護施設。介護付有料老人ホーム。住宅型有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅など。
- \*4 在宅復帰率・転院や死亡を除いた退院のうち、自宅や在宅系施設に退院された患者さまの割合

## 回復期リハビリテーション病棟における排泄

排泄ケアは人間としての尊厳を守るケアであると言われています。回復期リハビリテーション病棟では、患者さまが日常生活動作を獲得する事を目標に、スタッフは様々なケアを提供しています。中でも排泄は他のケアに比べ回数が多く24時間続くケアとなります。

当院では、在宅復帰に向けて「不要なおムツは外す・トイレで排泄できる」事を目指し日々訓練しています。トイレで排泄する事を獲得するまでには、色々な職種が関わり訓練をしています。

理学療法士はトイレまでの移動や便座に移動する動作・安定して座れる事を、作業療法士はトイレ内の動作全般（ズボンや下着の上げ下ろし、トイレトーパーでの後始末等）を、言語聴覚士は言語障害で意思を上手く伝えられない患者さまが「トイレに行きたい」と訴える事が出来るように、それぞれ訓練をしています。

看護師やケアワーカーは患者さまの入院前後の排泄パターンを確認して、トイレに誘導するタイミングを把握しています。

それぞれの職種が専門性を発揮して情報交換しながら、患者さまひとりひとりの回復過程や残存機能に応じた排泄方法を提案し、日々訓練を行っています。看護部長の教えである「排泄介助は尊厳である」事を忘れずに、スタッフ一同これからも排泄ケアに取り組んでいきたいと思ひます。



看護部 係長 たにくち ゆき  
谷口 由喜

## リハビリテーション科活動報告

# 全職員向け認知症サポーター養成講座を開催！

私たち回復期リハビリテーション病棟の一番の使命は何か？それはもちろん患者さまが在宅生活へ戻れるよう支援させて頂く事です。

そのためには、退院する患者さまがどのような生活に戻り、どのように地域に参加していくかを知らなければ、患者さまにとって本当に必要なリハビリを提供する事は出来ません。

“地域を知るためには何をすればいいのか？”

当院リハビリ科では ①認知症ワーキング ②介護予防ワーキング ③杉並地域生活ワーキングの3グループからなる『地域包括ケア推進ワーキング』という取り組みをスタートさせました。

そこで認知症ワーキングチームの活動として、杉並区地域包括支援センターであるケア24(善福寺・西荻・上荻)の皆様にご協力いただき【認知症サポーター養成講座】を開催しました。院内職員を対象としたこの講座では、認知症について講義と寸劇で楽しく学び、認知症の方への対応についてグループワークで話し合い、認知症への理解を深めることができました。

計3回の講座に154人の職員が参加し、認知症サポーターの証であるオレンジリングを頂きました。学んだことを今後の業務の中ではもちろん、地域のみなさまの生活をサポートするためにも役立てていきたいと思えます。

リハビリテーション科 係長 成 美央子 (理学療法士)

## 講演会『身寄りのない方が入院できるように』開催

去る7月22日、権利擁護のパイオニアである池田恵利子先生に成年後見についてご講演いただきました。事例を通じ分かりやすい解説と、わが国の家族を前提とした身元保証制度の問題を提起されました。特に、家族が居ない場合の医療同意・保証人等は後見人にもできない事項であり法の欠損だとして今後の審議課題であると明言されました。しかし、制度があっても成年後見を必要とする方々が制度利用へ繋がることは少なく、身近で支援に関わる者が行動する必要があると力説され、ご自身の“押しず、焦らず、諦めず”という信念をご教示いただき、参加者全員へエールを送っていただきました。



地域連携室 主任 ひろかわ さとみ 廣川 里美

地域包括ケアシステムにおける当院の役割

### 『健康教室』『家族介護教室』で積極的に地域連携!!

- 6/20 『福祉用具を使用する際の軽介助方法・福祉用具の使用方法』（ケア24 善福寺協力）
- 6/30 『歩行バランス～理学療法士が教える理想の歩き方～』（ケア24 上荻協力）
- 7/14 『車椅子・歩行器の使い方の基本～いつかきっと役立つ介助のポイント～』（ケア24 善福寺協力）
- 7/29 『認知症予防のための口腔器官と栄養』（ケア24 善福寺協力）
- 9/13 『嚥下について(仮)』（ケア24 上荻協力）
- 10/13 『認知症のある方の食事介助の基本～食べる意欲を引き出す食事介助の工夫～』（ケア24 善福寺協力）
- 10/28 『コグニサイズ+近所でも実践可能な体操の提案+握力・片足立ち測定』（ケア24 善福寺協力）

## ◆ 平成 28 年 5 月～8 月入院患者数と紹介元医療機関

5 月から 8 月の 4 か月間における新入院患者は 151 名、紹介元医療機関は以下の通りです。  
(五十音順、敬称略)

朝霞台中央総合病院、伊東市民病院、荻窪病院、浜田山病院、河北総合病院、関東中央病院、吉祥寺南病院、杏林大学医学部付属病院、久我山病院、慶應義塾大学病院、公立昭和病院、国際医療福祉大学三田病院、佐々総合病院、至誠会第二病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、順天堂大学医学部附属練馬病院、聖路加国際病院、世田谷下田総合病院、相馬病院、田中脳神経外科病院、千葉中央メディカルセンター、町立八丈病院、東海大学八王子病院、東京医科大学病院、東京衛生病院、東京大学医学部附属病院、新渡戸記念中野総合病院、練馬総合病院、練馬光が丘病院、広島赤十字・原爆病院、府中恵仁会病院、防衛医科大学校病院、保谷厚生病院、町田市民病院、武蔵野赤十字病院、武蔵野徳洲会病院、目白病院、山中病院、横浜栄共済病院、ロイヤル病院 ほか

以上、41 か所 ご紹介ありがとうございました。

## ～当院の現況～

	平成28年 6月	平成28年 7月	平成28年 8月
ベッド稼働率	99.5%	98.5%	95.1%
入院延べ患者数	3,054 人	3,120 人	2,978 人

在宅復帰率(直近3ヶ月)…90.9%  
重症患者割合(直近6ヶ月)…36.3%  
重症患者回復病棟改善割合(直近6ヶ月)…52.0%

※日常生活機能評価で10点以上の新規患者割合  
※重症患者のうち4点以上改善している者の割合

## 交通のご案内



■JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分

## 編集後記

患者さまの在宅復帰は、回復期単体の当院の唯一にして最大の目標です。医師、看護師、セラピスト・その他コメディカルスタッフから事務職員に至るまで同じ目標に向かっていることは、我々の「強み」のひとつであります。今号は、そんな思いで『在宅復帰』をテーマに編集にあたりました。参考にしていただけたら幸いです。

(編集委員)

医療法人社団 瑞心会  
杉並リハビリテーション病院

内科・リハビリテーション科

- 発行 行：杉並リハビリテーション病院
- 発行責任者：門 脇 親 房
- 編集 集：総 務 課

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>

〒167-0042  
東京都杉並区西荻北 2-5-5

TEL:03-3396-3181 (代)

